



地域の方に支えられて～生活福祉系列3年と自由選択「生活支援技術」の一コマ

①ペタンク講習会

1～2回、村上市ペタンク協会の方々から、子どもから高齢者まで、障害の有無にかかわらず楽しめるニュースポーツとして「ペタンク」を教えてくださいたいです。

今年度は前日までの雨の影響で室内コートでの実施になりました(担当者4年目で初です)。

生徒にとっては地域の方々特に高齢者の方々との交流にもなっています。

全くやり方がわからないままスタートしますが、そこは生徒の若さです。あっという間にやり方を覚えます。ただ奥が深い“ペタンク”そう簡単にはうまくはいかないのです。でも、点数の計算方法を教えてもらったりして、ゲームが読めるようになると生徒はこうしようああしようと楽しんでくれます。それを見ているペタンク協会の方々も楽しんでくれます。みんなが笑顔になるひとときです。



②視覚障害者の方の講話



年に1回新発田市在住の視覚障害者の方から盲導犬とともに来ていただき、話を伺っています。私がこの学校に異動する前からですから相当長い期間お世話になっています。今年度も例年通りお世話になりました。生徒は、講師の方がどのような生活をされているかの話を聞き、毎回“意外と普通”という感想を持つようです。そして“盲導犬”にも熱い視線が注がれます。でも、ペットではないので、そこはしっかりわきまえて、でもかまってみたいのをお願いして、ハーネスを少しだけはずしてもらいます。盲導犬もいつもと違う人が集まっているので嬉しそうにしています。

③聴覚障害者の方の講話

年に1回村上市在住の聴覚障害者の方からお話を伺っています。手話通訳の方も一緒に来ていただきます。こちらの講話も生徒は講師の方がどのような生活をされているかの話を聞き、毎回“意外と普通”という感想を持つようです。手話でクイズをしたり、自分の名前の手話を教えていただいたり、時間はあっという間に過ぎていきます。



福祉の授業では、「実際に～する、実際に～聞く」ということがとても大切であると感じます。実際に障害を持つ方から話を聞くことで様々な気付きに出会う。自分の思いと違う答え、コミュニケーションが難しいと思っていても通じた時の喜びなど。しかも高校生という純粋な時期にこそ触れてほしい。だから、実際に触れる、接する機会を大事にしたいと考えています。専門的なことはこれからいくらでも勉強できます。そのきっかけを授業で伝えられるということはとてもありがたいことだと思っています。

村上桜ヶ丘高校は様々な方々に支えられて、貴重な機会をいただいていると思います。今後もお互い無理のない範囲で、続けていきたいと考えています。